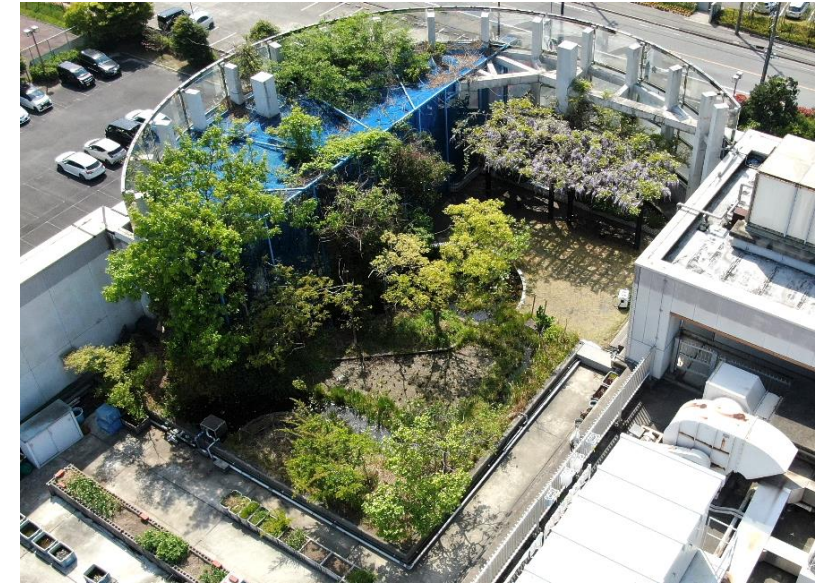


場所・面積 愛知県名古屋市、0.020 ha

管理目的 都市環境での自然性の回復を目指し、屋上空間を多様な生物が生息できる緑地として有効に活用すること。また、地域住民の環境学習の場や従業員の憩いの場とすること。

サイト概要 愛知県名古屋市港区の6階建てビルの屋上に位置するビオトープ。ビオトープ内にはかつて広く農山村でみられた風景をモデルに、池や小川、水田、樹林などを整備し、カエル類、魚類、昆虫類などの多様な生物が生息できる緑地を創出。水田では稲作を行い、また月に1度、従業員による管理活動を行っている。



土地利用の変遷 元々は火力発電所の跡地であり、そこへ建設されたビルの屋上にビオトープを整備した。

サイト周辺の環境 愛知県名古屋市港区の工業地帯に位置し、申請サイト周辺の緑地は僅かである。なお、付近には堀川、山崎川の河口部があり水鳥類の採餌環境となっている。

アピールポイント 小さい空間ながらもヒヨドリやキジバトの営巣やアゲハチョウ類等の飛来や繁殖がみられ、地域在来種の繁殖の場となっている。また希少動物の保全場所として活用しており、中部大学第一高等学校と連携し、ウシモツゴの域外保全を実施している。また環境学習の場としても活用しており、愛知県環境学習施設等連絡協議会が主催する「AELネット環境学習スタンプラリー」の受付や地元中学校の校外学習の受け入れを実施し、地域住民が生物多様性を学ぶ場所となっている。

生物多様性の価値

価値(4) 生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

かつて広く農山村でみられた風景をモデルとした池や小川、水田、樹林環境となっている。日陰や水場があり、ビオトープ周辺の気温上昇を抑制している(調整サービス)。また、地元中学校の校外学習や地域住民の見学受け入れ、整備した水田において従業員の稲作体験等を実施しており、教育やレクリエーションの場となっており(文化的サービス)、収穫したもち米は従業員に提供する等(供給サービス)、生態系サービスを提供している。

【主な植生】

主な植生は、アゼスゲ群落、ミゾソバ-セリ群落、チガヤ群落、ヨモギ群落、低木群落(アベマキ、エノキ、ハゼノキ、ヤブツバキ、ムラサキシキブ等)である。

【確認された主な動植物】

以下の通り在来種が確認されている。

- キジバト(学名: *Streptopelia orientalis*, 成体, 幼体)
- モズ(学名: *Lanius bucephalus*, 成体)
- ギンヤンマ(学名: *Anax parthenope julius*, 成体)
- クマゼミ(学名: *Cryptotympana facialis*, 成体, 幼体)
- ナミアゲハ(学名: *Papilio xuthus*, 成体, 幼体)
- ゴマダラチョウ(学名: *Hestina japonica*, 成体)
- テリハヤブソテツ(学名: *Cyrtomium laetevirens*)
- カタバミ(学名: *Oxalis corniculata*)
- チガヤ(学名: *Imperata cylindrica* var. *koenigii*)
- ヨモギ(学名: *Artemisia indica* var. *maximowiczii*)



写真の撮影年月: 2022年6月

写真の説明: 稲作(田植えの様子)



写真の撮影年月: 2010年頃

写真の説明: 校外学習の写真

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

かつて広く農山村でみられた風景をモデルとした池や小川、水田、樹林環境。

【対象となる動物種】

1998年（ビオトープ設置）から2022年までに営巣が確認された種は以下の通りである。

- ・キジバト（学名：*Streptopelia orientalis*,成体,幼体）
過去4回営巣を確認、このうち少なくとも2回は雛（幼体）の巣立ちを確認した。
- ・ヒヨドリ（学名：*Hypsipetes amaurotis*,成体,幼体）
過去3回営巣を確認、このうち少なくとも1回は雛（幼体）の巣立ちを確認した。

周囲は工業地帯で樹木等も少なく、繁殖できる限られた環境の一つとして利用されている。

毎年、年間を通じて以下の種の飛来・繁殖が確認されている。

- メジロ（学名：*Zosterops japonicus*,成体）
- イソヒヨドリ（学名：*Monticola solitarius*,成体）
- スズメ（学名：*Passer montanus*,成体）
- カワラヒワ（学名：*Chloris sinica*,成体）
- ヒヨドリ（学名：*Hypsipetes amaurotis*,成体,幼体）
- キジバト（学名：*Streptopelia orientalis*,成体,幼体）



写真の撮影年月：1999年9月

写真の説明：サイト内で確認されたキジバトの営巣（写真は幼体）



写真の撮影年月：2022年7月

写真の説明：サイト内で確認されたヒヨドリの営巣（写真は幼体）

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <p>日常管理：従業員による日常的な管理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に水位の管理を行う。 <p>年間管理：従業員による年間を通じた管理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水生植物の間引きを実施。特定の水生植物の繁茂を抑制し、水生動植物の生息・生育に適した環境を維持する。 ・枯草の刈り取りや落ち葉の除去を実施し、水中のヘドロの増加を防ぐとともに、堆積したヘドロの除去を行い、水生動植物の生息・生育に適した環境を維持する。 ・草刈りを実施し、著しく繁茂する草本類を間引くことで多様な草本類が生育できる環境を維持する。 ・成長が著しい樹木の剪定を実施し、十分な日射量を確保することで、多様な草本類が生育できる環境を維持する。 ・外来動植物の除去を実施し、在来生態系への悪影響を阻止する。 ・水田において稲作を実施し、水田環境を利用する動植物の生育・生息環境を維持する。 	<p>【モニタリング対象】</p> <p>動植物相、ウシモツゴ</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>ビオトープ全体</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>目視及び捕獲調査</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>鳥類、魚類、昆虫類、両生類、爬虫類、植物（維管束植物のみ）を対象としたモニタリング調査を3年に1度実施する。ウシモツゴは2023～2026年は毎年実施し、それ以降は3年に一度実施する（生息状況によって変更）。またサイト管理者や従業員による日常的な観察を実施。</p> <p>【実施体制】</p> <p>生物分類技能検定1,2級の資格保有者が主体となり、従業員による調査を実施する。</p>